

いのちの言の葉

『いのちの教育～すべての子供に「生きる力」を～』

平成20年度 富山市立大泉中学校 1年

富山県教育委員会 平成20年度いのちの教育支援事業 平成20年7月8日実施

「生きているだけで100点満点」

手作りの胎児の人形を抱かせていただいたり、妊婦さんの心音を聞かせていただいたりして、いのちの誕生についてお話を聞きました。

いのちの先生
県立中央病院

酒井 照枝 看護師長

今日の授業を通して、赤ちゃんが生まれることは、父・母だけの楽しみではなく、家族全員の楽しみであることが分かり、すごいと思いました。



赤ちゃんが生まれるとき、お母さんだけががんばっているのではなく、赤ちゃん自身もがんばっているし、家族も応援しているから、赤ちゃんが生まれるとき、絆がぐっと深まるんだと思いました。



今日の授業から、いのちの重大さを知りました。みんながんばって生まれてきたんだから、自分のことも周りの人のことも大切にしないといけないことがよく分かりました。



【内容】

- ・胎児の成長の過程や重さの体験
- ・妊婦さんの心音とお話
- ・絵本の読み聞かせ など



赤ちゃんの心拍音を聞いたとき、力強く鼓動していました。「赤ちゃんはがんばっているんだな」と思いました。とても驚きました。

自分はいないほうがよかったんだと思うことがあったけど、私はみんなから大切にされているんだと感ずることができました。今度、今日の授業のことを話して、改めて産んでくれたお母さんたちに感謝しようと思いました。

〔参加された保護者の感想〕

今日の講演を聞いて、忘れかけていた、生まれたときの感動を思い出ことができました。とても新鮮な気持ちになりました。そして、子供にとって一番居心地のいい場所が家庭であるためにも、親の努力が必要だと反省しました。親にも家族の在り方を見つめ直す機会を与えてくださったことに感謝しています。

生きているだけで百点満点と聞いて、少し安心しました。なぜかと言うと、自分は世界で1人しかいない、かけがえのない存在だと改めて思ったからです。